関東信越厚生局　令和５年度地域包括ケア応援セミナー

「認知症における空白の期間とは？」

日　　時：令和6年2月2日（金）　13時00分～16時30分

会　　場：さいたま新都心合同庁舎 1 号館 講堂

参加人数：158名

今回テーマとした取り上げた「認知症における空白の期間」は、認知症の違和感を覚えてから、診断を経て介護保険サービスに至るまでの期間を指しますが、その期間の本人の過ごし方や支援にスポットをあててセミナーを開催しました。

セミナーを通して、参加者の皆さまに「認知症における空白の期間」の過ごし方が大事であることに気づいていただけたかと思います。様々な形で認知症の方への支援に向けた取組みが地域で始まることを期待しております。

関東信越厚生局では、今後も認知症の方への支援の取組の情報を集めて発信していきたいと思います。

～アンケート結果～

1. アンケート回答者：118名（回答率75%）

2. 主なご意見、感想

① 認知症介護研究・研修東京センター　粟田センター長の講演について

○ 空白の期間と診断後支援がセットであること。疾患センターの役割も補強されていること。地域とつながっていくということが方針であることがよくわかりました。（作業療法士）

○ 空白の期間を無くせるように、地域全体で協力していく必要があると感じた。あくまで本人主体で考えるということは当たり前のようで忘れがち、　失念しがちなため、意識していきたい。（保健師）

○ 認知症に対しての理解や、誰もが高齢化でなりうる認知症の取り組みや、フレンドリー社会の実現にむけて努力していきたいと思います。（民生委員）

② 事例発表　板橋区について

○ 官民しっかり協働されている様子が伝わった。協議会の開催に向けて当事者の意見を確認している点が参考になった。（事務職）

○ 認知症サポーター養成講座やステップアップ講座で声掛け訓練をやってみたいと思っていました。地域の事業所とのつながりをつくり、強くしていけるツールにもなることが今回分かり、同じ推進員だけでなく生活支援コーディネーターと共に地域づくりの１つとしてやっていきたいと思いました。（看護師）

○ 居場所づくりのための具体的な取り組みやその進め方がイメージできた。（社会福祉士）

③ 事例発表　埼玉県について

○ 行政として当時者と一緒につくっていくとを考えているのは私たちの市と同じだと感じた。推進員との連携大事だと感じた。（介護支援専門員）

○ 埼玉県の現状を知ることができよかった。（看護師）

○ 管内の高齢化が課題となっていること。チームオレンジを活用して、課題への取り組みを支援していることがわかりました。（作業療法士）

○ 若年性認知症について知り、今後の活動を学びたい。（民生委員）

④ 事例発表　認知症の人と家族の会

○ 空白期間と居場所の考え方、その支援について理解が深まった。また問題点も見つかった。（認知症地域支援推進員）

○ 2人集まればよい。この言葉が印象的でした。場を作ることばかりを考えていたため、当事者同士をまずは会わせること、そこができると良いなと思いました。（保健師）

○ 若年性認知症の方が抱える生活課題は多様であること。その多様の課題への取り組み、サポート体制を整備することが、高齢者の課題にも役立つものであることがわかりました。（作業療法士）

⑤ パネルディスカッションについて

○ 当事者2人の生の声がとても心に響いた。人柄も良かったので、もっと話を聞きたいと思った。（コーディネーターの）佐藤さんが全力で当事者の方と向き合っていて素晴らしい。（行政機関）

○ 当事者2名の実体験、日常生活上の工夫点などが、とても参考になった。サポートしていく上での留意点についてたくさん気づきがあった。（社会福祉士）

○ 行政の立場で横の連携（地域含め）、持続可能な内容（当事者の声を聞いて）のイメージが少しずつわいてきました。「はざまの仕事は誰がやる？」「誰かがやるでしょう」という考え方がある中で、自分事として捉えて頂くことの視点が必要と思いました。（保健師）

○ 居場所について、当事者が出会えば居場所になるというコメントが印象的だった。行政主導な側面が強いので、当事者の声を聞く場をもっと作れるといいと感じた。（行政機関）